

尼崎市事業所景況調査 【 2021(令和3)年1-3月期 】

業況判断DIは、全産業、製造業、非製造業とも悪化。
 景気回復は足踏み。新型コロナウイルスの影響により依然厳しい状況。

<調査結果のポイント>

- ◎ 売上高等DI 全産業、非製造業で悪化。製造業で大幅な悪化。
- ◎ 資金繰りDI 全産業、製造業で悪化。非製造業で横ばい。小売業で改善。建設業で悪化。
- ◎ 従業員の過不足DI 製造業で不足感が上昇。非製造業で不足感は低下。

<主要指標の結果概要>

- (1) **業況判断DI**は、▲38.6(14.6ポイント低下)で悪化。来期は改善の見通し。
 産業別では、製造業は▲21.0(12.2ポイント低下)で悪化。非製造業は▲47.0(16.2ポイント低下)で、悪化。
 製造業の規模別では、大企業が▲13.4(7.1ポイント低下)で悪化。中小企業が▲21.9(12.8ポイント低下)で悪化。
 非製造業の業種別では、建設業が▲26.3(14.1ポイント低下)で悪化、卸売業が▲48.5(55.2ポイント低下)で大幅に悪化、小売業が▲63.0(10.3ポイント低下)で悪化、サービス業は▲46.2(11.2ポイント低下)で悪化しました。
- (2) **出荷額・売上高・完成工事高DI**は、▲41.7(18.8ポイント低下)となり、悪化。
- (3) **売上単価・客単価DI**は、▲24.2(4.5ポイント低下)で、低下。
- (4) **(原材料)仕入価格DI**は、13.2(6.2ポイント上昇)で、上昇。
- (5) **在庫水準DI**は、3.3(2.9ポイント上昇)で、過剰感が上昇。
- (6) **収益DI**は、▲47.1(15.3ポイント低下)で、悪化。
- (7) **資金繰りDI**は、▲21.6(1.2ポイント低下)で、悪化。
- (8) **従業員の過不足DI**は、▲19.5(2.9ポイント低下)で、不足感が上昇。
- (9) **設備投資を実施した企業割合**は、24.2%(4.8ポイント上昇)で、上昇。来期は低下の見通し。

注1: DIは景気動向指数「デフュージョン・インデックス(Diffusion Index)」の略。「増加」(または「上昇」「好転」「過剰」と回答した企業の比率から「減少」(または「下降」「悪化」「不足」と回答した企業の比率を差し引いたものです。
 注2: ()内は前回調査との差を示します。

<調査要領>

- (1) 調査時点: 令和3年2月12日
- (2) 調査方法: アンケート用紙郵送による
- (3) 業種別回収数、回収率、配布数: 右表のとおり
- (4) 全体の有効回収率: 39.9%
- (5) 事業主体: 尼崎市
 調査主体: (公財) 尼崎地域産業活性化機構

業種	回収数	回収率(%)	配布数
全産業	399	39.9	1,000
製造業	129	49.0	263
大企業	15	36.6	41
中小企業	114	51.4	222
化学	17	44.7	38
鉄・非鉄	33	46.5	71
一般機械	37	58.7	63
電気機械	17	50.0	34
その他	25	43.9	57
非製造業	270	36.6	737
建設業	38	50.0	76
卸売業	33	54.1	61
小売業	54	32.3	167
サービス業	145	33.5	433

<本資料の問い合わせ先>

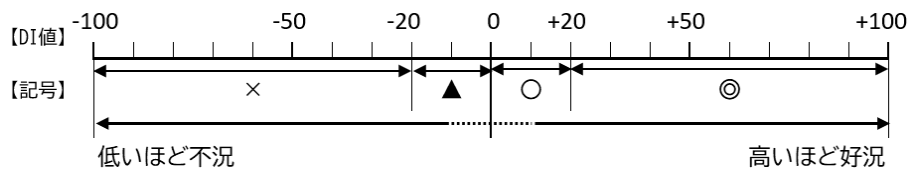
- 尼崎市 経済環境局 経済活性課
 担当: 木田・重本 連絡先: 06-6489-6670
- (公財) 尼崎地域産業活性化機構 調査研究室
 担当: 宮崎 連絡先: 06-6488-9534・9565
<https://www.ama-in.or.jp/research/sub01.html>

■景況調査結果の総括（令和3年1-3月期）

業種 項目	全産業	製造業			非製造業				
		全体	大企業	中小企業	全体	建設業	卸売業	小売業	サービス業
今回 業況判断 DI値 ※1	×	×	▲	×	×	×	×	×	×
前回との 差 ※2	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
	-38.6	-21.0	-13.4	-21.9	-47.0	-26.3	-48.5	-63.0	-46.2
	-14.6	-12.2	-7.1	-12.8	-16.2	-14.1	-55.2	-10.3	-11.2

表のよみ方

※1：「業況判断DI値」(=「好転した割合」-「悪化した割合」)は、下図のとおり記号化しました。



※2：「前回との差」は、前回調査のDI値との差を、下表のとおり記号化しました。

記号	↓	↓	↓	—	↑	↑	↑
意味	大幅な下落	下落	やや下落	横ばい	やや上昇	上昇	大幅な上昇
DI値の差	-20.0以下	-20.0超～ -5.0以下	-5.0超～ -1.0以下	-1.0超～ 1.0未満	1.0以上～ 5.0未満	5.0以上～ 20.0未満	20.0以上

■産業別の概要

【製造業】「事業所の業況判断DI」は▲21.0（12.2ポイント低下）と、悪化しました。「出荷額DI」、「収益DI」は大幅な悪化、「資金繰りDI」は悪化しました。「売上単価DI」は低下しましたが、「(原材料)仕入価格DI」は上昇しました。「在庫水準DI」は上昇し、過剰感が上昇しました。「設備投資」を実施した事業所の割合は上昇し、来期は横ばいの見通しです。「従業員の過不足DI」は1年ぶりにマイナス値となり、不足感へ転じました。「来期業況」は改善の見通しです。

<規模別> **【大企業】** ▲13.4（7.1ポイント低下）で悪化。来期は改善の見通し。

【中小企業】 ▲21.9（12.8ポイント低下）で悪化。来期は改善の見通し。

<業種別> **【化学・プラ】** ▲29.4（41.9ポイント低下）で大幅な悪化。来期は大幅な改善の見通し。

【鉄・非鉄・金属】 ▲30.3（43.4ポイント低下）で、大幅な悪化。来期は改善の見通し。

【一般・輸送機械】 ▲2.7（29.4ポイント上昇）で、大幅な改善。来期は横ばいの見通し。

【電気・機械】 ▲17.6（0.0ポイントで変化なし）で、横ばい。来期は改善の見通し。

【その他】 ▲32.0（8.9ポイント低下）で、悪化。来期は悪化の見通し。

【非製造業】「事業所の業況判断DI」は▲47.0（16.2ポイント低下）と、悪化しました。「売上高・完成工事高DI」「収益DI」は悪化、「資金繰りDI」は横ばいとなりました。「売上単価・客単価DI」は低下し、「(原材料)仕入価格DI」は上昇しました。「在庫水準DI」はプラスに転じ、過剰感が生じました。「設備投資」を実施した事業所の割合は上昇し、来期は低下の見通しです。「従業員の過不足DI」は上昇し、不足感が緩和しました。「来期業況」は改善の見通しです。

<業種別の業況判断DI>

[建設業] ▲26.3（14.1ポイント低下）で、悪化。来期は悪化の見通し。

[卸売業] ▲48.5（55.2ポイント低下）で、大幅な悪化。来期は改善の見通し。

[小売業] ▲63.0（10.3ポイント低下）で、悪化。来期は改善の見通し。

[サービス業] ▲46.2（11.2ポイント低下）で、悪化。来期は改善の見通し。

調査結果の詳細は、右記ホームページをご覧ください。 <https://www.ama-in.or.jp/research/sub01.html>